

第 65 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理及び、'伝える'を学ぶ—

9月の研修会は、引き続き湿生生態園の植生管理作業と、11月に行われる公園まつりで実施予定の市民参加型プログラムの検討や準備を通して「伝える技術」を学ぶ研修を行いました。



晴天が続き、順調に育つ稲。

来月行われる稲刈りまで、
案山子がしっかり守ってくれています。



はじめに、1日の研修内容について、
資料を見ながら講師から説明を受けます。



まずは湿生生態園の植生調査からスタート。



5月から毎月行っていたヨシ刈りで、背が高く生長の早いヨシの勢いを抑えてきました。
湿地に光が入りやすくなった事で、徐々に多様な湿生植物の暮らせる湿地環境に
なっているか、植生調査の結果で判断できるのです



今回は、少し早めに昼食となりました。
写真は田んぼの近くで見つけたナツアカネです。



午後は場所を変えて、棚田状湿地の水路整備作業からです。
先月掘った水路を、もう少し広げ、ちゃんと水が流れるよう調整していきます。



流れを阻害しそうな植物は、根ごと除去します。



根を張って土手を崩れにくくしてくれる、
セリ、ミゾソバなどを植栽します。



これで完成です。水もうまく流れてくれたので、乾燥化が進んでいた周辺の湿地にも水が入り、湿地環境が維持できます。



その後は、秋に行うイベントで参加者に谷戸山のそれぞれの環境のもつ役割など紹介できるよう、全体を視察して回ります。



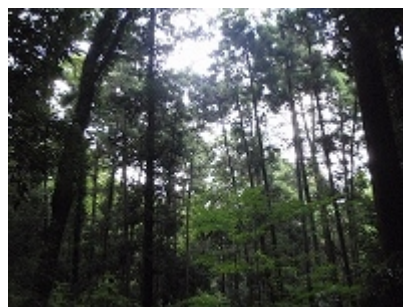
こちらはシラカシ林。落葉樹のケヤキが所々に生えていますが、極相林の一步手前までできています。林床にはあまり光が入らず、暗い林です。



谷戸山公園では、柵を立てる代わりにこのようにイヌツゲ、ヒサカキなどで生垣にしています。その先に見えるのは、森と森を樹木でつなげた、動物たちが行き来できるコリドー(回廊)です。



こちらは、昆虫の森という雑木林です。10年程経過しているため、もうそろそろ森を若返らせるための萌芽更新が必要なようです。



こちらはスギ・ヒノキの観察林です。とても暗い森ですが、手入れはしないという、公園の方針のようです。



こちらは、私達も管理作業を行っている雑木林です。ヒサカキなどの常緑樹を間伐してきたことで、
少しずつ林床の植物も花をつけてくれるようになってきてはいるのですが、
彼らにとってはまだ明るさが不足しているようです。



ある程度見て周ったところで、イベントの企画内容をみんなで話し合いました。

この後、残りの園内のポイントを見て、今回の研修会は修了です。11月末に予定しているイベントまであと2ヶ月。公園利用客の親子を対象として、普段行っている管理とその意味を、楽しみながら学べるような企画を考えています。ビオトープ管理士に必要とされる、インタープリテーションを学べる良い機会だと思いますので、ぜひご参加ください。